

第 4 回リフレかやの里官民対話 協議内容

日時	令和 6 年 7 月 17 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分
場所	元気館 視聴覚室
参加者 （敬称略）	(株)合縁奇縁 代表取締役 中本裕之 対話アドバイザー：三交興業(株) 営業推進部長 西野彰二 対話アドバイザー：与謝野町観光協会 会長 安達幸三 農林環境課 課長 三田大智 農林環境課 主査 森岡佳祐
司会（進行）	三田大智

会議の目的 （ゴール）	・コンセプトの確認と課題整理
----------------	----------------

◇協議内容（主な意見）

1.運営コンセプトについて （資料 1 リフレどうなる。どうする。）	● 与謝野町のお米や野菜、近隣の海幸を使用予定。リフレを合縁奇縁という会社名のとおり出会いを大切にする場にしたい。（(株)合縁奇縁） ● 年中様々なイベントを企画し、田舎でしか味わえない体験を豊富にする。また、リフレ近辺の運動施設を活用しスポーツ大会を誘致することで集客を図りたい。小学生からシニア世代まで集まることができるようスポーツ団体や企業を集めていきたい。（(株)合縁奇縁） ● 川沿いの整備をし、ライトアップや夕涼みができるように整備をしたい。（(株)合縁奇縁） ● 与謝野町は米や野菜が有名であり、周辺の海の幸が豊富、肉は近隣と提携して味付け等を工夫すれば魅力的になる。（アドバイザー） ● オールシーズンの全年齢型イベントを実施することで、人が寄りやすくなる。地域でなにか催し物があるということで与謝野町を通る人も訪れるやすくなる。（アドバイザー） ● 小さい頃に少年野球等のスポーツ団体で訪れると、合宿場所が良い思い出になり大人になってまた同じメンバーで訪れたいという風に思う。（アドバイザー） ● 川沿い整備については、環境活動の一環で LED ライトをお客さんに設置してもらって作り上げていく方法がある。（アドバイザー） ● 資料の修正は必要だが、全体的にまとめられたコンセプトとなっている。（アドバイザー） ● これらのコンセプトの中からできることから始めるのも案のひとつ。（アドバ
---------------------------------------	--

	イザー)
2. 営業形態について	● 過去リフレは施設を 2 回休止している。指摘事項として、同じ営業形態で施設が継続的に運営できるかどうかという点がある。(町) ● 観光業界の用語でプロダクトアウトとマーケットインという言葉がある。プロダクトアウトは顧客ニーズにより運営企業側の理論を優先した商品を提供する方法。マーケットインは消費者の要望・ニーズを理解して商品を開発し、消費者が求めているものを提供する方法。今回の提案は、マーケットインであり前営業形態とは違うものである。(アドバイザー) ● 町からの補助は指定管理でいただけるのか、補助がないということならないということで考えないといけない。(株合縁奇縁) ● 運営初年度の指定管理料や改修への投資は、施設の運営の継続性が不透明であるため難しい。コンセプトの中から少ない投資でできることから始めたほうが、(株合縁奇縁)にとってもリスクは少ないと思う。(町) ● 浴場の稼働が気になっている。飲食と宿泊はしっかりすれば収支は合うと思う。(アドバイザー) ● 浴場にコストがかかることは承知している。初年度から動かすつもりはない。エントランス部分に男女別でユニットバスの設置を検討している。(株合縁奇縁) ● 提案の条件に浴場の運営は入っていないので、浴場を動かすかどうかは自由。(町)
3. 今後のスケジュールについて	● 9 月の議会では対話の継続について具体的に説明したい。8 月上旬を目途に改良したコンセプト資料を提出いただきたい。それを受け、8 月の都市農村交流プロジェクトチームで対話の継続性について協議したい。(町) ● 都市農村交流プロジェクトチーム会議にて両アドバイザーからコンセプトやスキームの構築についてご意見いただきたい。対話の継続についての判断は町が行う。(町)

次回の日程と論点	開催日（予定）：令和 6 年 8 月上旬 ■ 論点 コンセプトの確認と課題整理
----------	---

資料	・資料 1 リフレどうなる。どうする。
----	---------------------